

現在の会員数 一般会員 141名 団体会員 7団体 協力会員 10名 (令和元年7月現在)

## 年次定例総会の報告

令和元年7月20日に「水を語る会」年次定例総会が開催された。定例総会には102名の会員が参加し、平成30年度事業報告・収支決算報告とともに、会員集会やホームページの管理、10周年記念書籍の発刊等令和元年度の事業計画が了承された。

## 総会特別講演の報告 (第35回会員集会)

日時：令和元年7月20日(土)13時30分～15時30分

場所：日本水道会館7階会議室

講演：「『飲水思源』に思う～明治維新以降の上下水道の事業哲学を巡って～」

(講師：稲場紀久雄 様 [大阪経済大学名誉教授])



特別講演では、「飲水思源」とは自分が水を守るという責任を担う存在であることを認識できるようにするためにある言葉である。水道と下水道行政が縦割り3分割になって62年経ち、今この体制を抜本的に見直す時期である。つまり、「飲水思源」をあらためて考えないといけない時代になってきていると説明されました。当初は完全統合を目指した上水道・工水・下水の3水が、明治政府によって3分割体制となり、下水道行政については処理系統と排除管きよに2分割され、その後下水道一元化と水質保全に活路を開いたお話があり、その後、日本の上下水道に深く関わった外国人技術者、特にバルトンとパーマーについて彼らの根本思想と、元老山県有朋によって下水道事業が全く進まなくなってしまうが明治32年のペスト大流行が下水道法制定実現のきっかけとなったこと、あ

わせて東京市長と大阪市長2人の決断により受益者負担と下水道使用料制度が発足し財源の道が開かれたこと等歴史について説明いただきました。

19世紀から現在までの120年、日本もイギリスも大きく制度が変わり、まさに今「飲水思源」について考えるべきであること、そして「水」を国民の財産と位置づけている「水環境基本法」のお話と、昨今の下水道行政の話題「浜松市のコンセッション」や「紙おむつの下水道受入れ検討」に対する思いを話されました。



会場の様子

## 定例幹事会の報告

日時：令和元年7月20日(土) 11時～12時

場所：日本水道会館7階会議室

議題：1. 総会役割確認 2. 「水道を語る」出版企画目次、表紙、副題等確認検討と決定。3. 次々回講演者講師について、他

## 編集後記

「水道を語る」がいよいよ出版の運びとなりました。水を語る会10年間の珠玉のエピソード集です。

会員の皆様には、引き続き「水を語る会」活動にご支援・ご協力をお願い申し上げます。

(幹事 坪井智礼)

◆新規入会をご希望の方は、事務局までご一報下さい。詳しくはホームページをご覧ください。

→ <http://mizuwokatarukai.org/>

以上